

スタートアップ深層 ～ 世界が注目する理由に迫る ～



自動二輪車のための
ADAS・フリート技術



EVのワイヤレス充電用
ロボットシステム

毎年多くのスタートアップ企業が誕生するイスラエル。革新的な技術やプロダクトを生み出し、世界から注目を集めているスタートアップの中から、今回、Rider Dome社とCharging Robotics社の2社に彼らの創業過程や事業戦略、今後の展望、さらには日本市場への思いや本音を聞いた。

1.

Rider Dome Ltd.

Mr. Yoav Elgrichi

CEO

自動二輪車のためのADAS・フリート技術の開発

Rider Dome社（以下：同社）は、自動二輪車の運転手の安全性を高めるためのADAS（先進運転支援システム）・フリート技術を開発している。このソリューションには、二輪車フリート向けの全体的な安全管理システムと組み合わせた、リアルタイムでの二輪車の安全警告システムが含まれる。

今回は、CEOのYoav Elgrichi氏に取材を行った。



自身の危機一髪の運転経験から創業

物流・宅配サービスや運転代行といった自動二輪車を活用した市場は、世界中で発展を遂げている。同社はこの市場に好機があるとして、技術開発に力を入れている。同社の提供するソリューションは、人工知能を用いて運転中の安全性を保証するだけでなく、フリート技術を用いて大量の走行データを収集し、安全性をスコア化しフィードバックを行うという特徴を持つ。

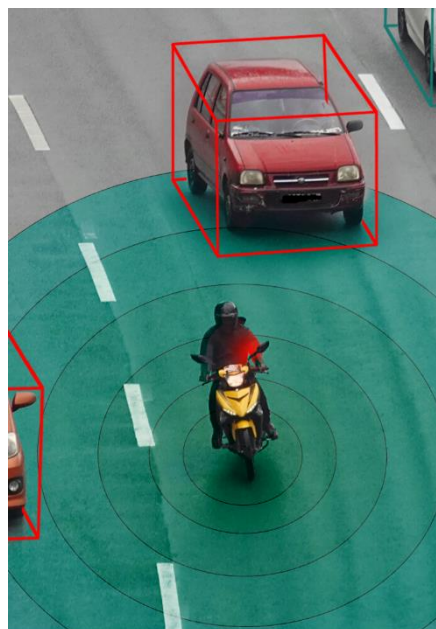
同社設立の背景には、CEOのYoav Elgrichi氏（以下：同氏）が二輪車を走行していた際に自動車と接触しそうになった経験がある。共同設立者であり、COOのKineret Karin氏とは前社において親交があり、互いに議論を重ねながら事業を発展させてきた。

他社にはない双方向のADAS技術

競合他社の既存のソリューションは、走行中のヒヤリハット地点や危険な車間距離を知らせるためのアラートを発するような単方向的なサポートのみであるのに対し、同社のソリューションは、双方向的なものである点に特徴がある。前述したように大量の走行中のデータを収集し、IoTを活用したフリート管理ツールでデータ化し、ユーザーにフィードバックを行うことで差別化を図っている。

また同技術は運転手の安全性の向上に寄与するだけでなく、モニタリング技術を搭載していることから、顧客が事故にあった際に必要な保険等の手続きを円滑に進めることにも寄与する。

現在、ジャカルタ、ドバイ、バルセロナなどの地域においてサービスを展開しており、中長期的な目標として日本への進出を計画している。



Yoav Elgrichi 氏

CEO から日本企業に向けたメッセージ

日本は世界基準で見ると相対的に自動二輪車の走行量が多い国です。まずは弊社の提供するソリューションを皆様にご存知いただくことから始め、将来的には日本における交通事故の防止に貢献したいと考えております。

<https://www.riderdome.com/>

2.

Charging Robotics Ltd.

Mr. Hovav Gilan

CEO

高い充電効率と質の高いユーザーエクスペリエンスを可能にするソリューション

Charging Robotics 社（以下：同社）は、高い充電効率と質の高いユーザー体験を提供する EV のワイヤレス充電用ロボットシステムを開発している。

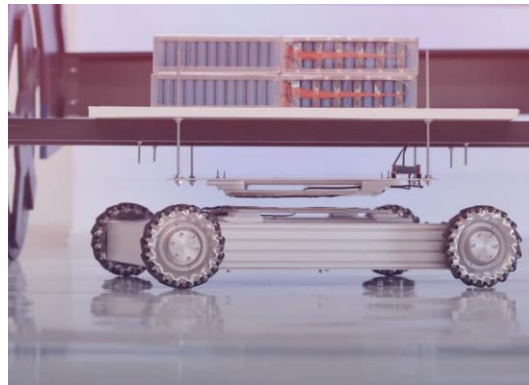


同社のソリューションを利用することで、ドライバーは、駐車後にスマートフォンアプリを使って簡単に充電を開始することが可能になる。自律走行するロボットが車両の下まで移動し、自動的に充電を行う。同社のシステムは、ロボットが同じ敷地内の多くの駐車場を移動し充電を行うため、公共充電器の設置コストも削減できる。

今回は、CEO の Hovav Gilan 氏に取材を行った。

電気自動車市場における充電の効率化

電気自動車の実用化が進む中でも、その充電プロセスの効率性にはまだ大きな課題がある。そこで CEO の Hovav Gilan 氏は、イスラエル空軍の戦闘機パイロットやエンジニアを含む仲間と、電気自動車のワイヤレス充電を改善するアイデアを考えた。彼らは自動的に車の下を移動して充電するロボットのプロトタイプを開発し、同社を創業した。

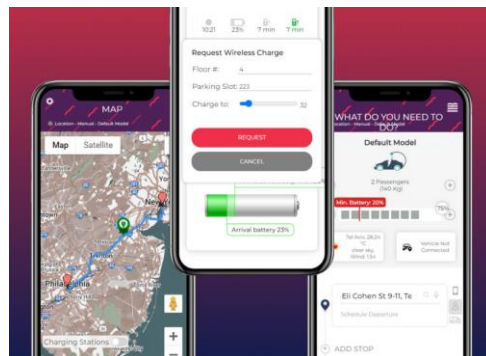


このロボットには車に電気を送るコイルがつけられており、充電が終わるとドッキングステーションに戻るか、次の車を充電しにいくようプログラムされている。

ロボットシステムとソフトウェアの両輪で EV 走行の最適化

同社は 2024 年 2 月に機械式駐車設備用の据え置き型ロボットを初めて設置した。このロボットを展開することで、ドライバーは充電器付きの駐車場を探す必要がなくなり、また全ての駐車場に充電器を設置する必要がないため、コストも抑えることができる。

同社はロボットシステムのみならず、最適な電力消費を維持し、バッテリーを節約するためのソフトウェアも提供



している。バッテリーの充電状態、同社のロボット充電システムの位置、車両の性能、天候や交通状況、地理に基づいて、最適な走行ルートを提案する。



Hovav Gilan 氏

CEO から日本企業に向けたメッセージ

われわれの現在の製品の多くは機械式駐車場用であり、特に機械式駐車場を管理・運営する不動産会社等にとって、駐車場で電気自動車を充電できるようにする試みは非常に興味深いものになると思います。そういった試みに興味をもっていただける企業様をお待ちしております。

<https://www.chargingrobotics.com>